

「表現の不自由展中止事件」 の本質とは何か

一検閲・差別・管理への抵抗をめざして

2019年夏、日本の戦後最大規模と言える検閲事件が起きました。国際芸術展・あいトリエンナーレ(あいトリ)2019での『表現の不自由展・その後』展に対する強制的な展示中止です(「表現の不自由展中止事件」)。同展は、排外主義や歴史修正主義、性差別を背景にして検閲・排除された芸術作品を集め、展示する企画展プロジェクトとして、2015年、東京のギャラリーから出発しました。あいトリで何が起き、残された課題は何なのか、その本質に迫りつつ、日本社会の何が問題なのかをさまざまな論点から問題提起をし、表現の自由への侵害にどう抗するのか、ともに考えていきます。

コーディネーター

●アライ
= ヒロユキ

(美術・文化社会批評
/「表現の不自由展」
実行委員会)



●岡本有佳

(編集者/
「表現の不自由展」
実行委員会)

●2020年8月～2021年1月

●原則として火曜日 19時～21時/全11回

●教室受講：36,000円

オンライン聴講：20,000円

オンライン・25歳以下：5,000円

※初めて自由学校通年講座を受講される方は別途入学金
10,000円が必要です(オンライン・25歳以下は免除)。

講師・プログラム(予定)

8/25 『表現の不自由展・その後』展中止
をめぐり何が起きたのか
アライ = ヒロユキ / 岡本有佳

9/8 「表現の不自由展中止事件」は
どう報じられたか
柏尾安希子(神奈川新聞 記者、論説委員)

9/18 (金) <平和の少女像>と表現の自由
—「慰安婦」問題と歴史修正主義
金 富子(東京外国語大学大学院 教授)

10/6 アートを社会の中に活かすとは
林 容子(一般社団法人アーツアライブ 代表理事/
尚美学園大学 准教授 / 一橋大学大学院・武蔵野美術
大学 講師)

10/21 (水) イベントのリスクとは何か。
市民はどう対応できるのか
三木 譲(差別・排外主義に反対する連絡会)

11/4 (水) 歴史修正主義に市民社会はどう向きあうか
—日本とドイツの比較から
Sven Saaler(上智大学国際教養学部 教授/
フリードリヒ・エーベルト財団東京事務所 日本代表)

11/17 表現の自由と法律家の役割
—裁判、仮処分による権利実現は可能か
李 春熙(弁護士/ニコンサロン「慰安婦」写真展
中止事件弁護団)

12/1 見守る朝鮮学校美術教育とアート、
見守れない日本社会
崔 誠圭(東京朝鮮中高級学校・栃木朝鮮
初中級学校 美術講師)

12/16 (予定) 表現の自由と規制の相克
—憲法から考える争点
宮下 紘(中央大学総合政策学部 准教授)

1/12 市民社会スペースとしての公共的
文化・集会施設の現状と可能性
谷 和明(東京外国語大学 名誉教授)

1/26 おわりに—世界の不自由と抵抗
アライ = ヒロユキ / 岡本有佳

資料請求・問合せ・申込先

アジア太平洋資料センター (PARC) 自由学校

〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町1-7-11 東洋ビル3F
(JR御茶ノ水駅徒歩6分 都営小川町駅・東京メトロ淡路町駅・新御茶ノ水駅徒歩2分)

FAX:03-5209-3453 E-mail:office@parc-jp.org

☎ 03-5209-3455

PARC自由学校

検索

http://www.parcfs.org/

こちらでも情報発信中!

